

広報

おおやまざき

1

2018(平成30)年

ハートあふれる1年に!

謹賀新年

JR山崎駅前の妙喜庵前に設置されたハート型モニメント。町の新しい写真スポットとして人気を集めています。記念写真、1枚いかがですか? (関連記事4ページ)

年末年始の燃えるごみの収集日程

(資源ごみの収集日は「ごみの出し方」日程表をご確認ください)

	収集日程	収集内容
年末	12月29日金まで	平常どおり
年始	12月30日土～1月3日水	収集はありません
	1月4日木～	平常どおり

問＝経済環境課清掃環境係(内線246・247・248)
☎956-2101

今月の主な内容

- 新年あけましておめでとうございます p2
- ハートのまちおおやまざき p3
- 平成29年度実施
大山崎町職員採用試験案内 p7
- 広報おおやまざきは600号 p8

vol.600

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

明けましておめ

—新年のご

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、気持ちも新たに輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より町議会にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対し、心から感謝申し上げます。

私が町議会議長に就任し、早くも1年が経過しました。微力ながら、さらなる議会の活性化、開かれた議会に向けて誠心誠意努力を続けてまいる所存です。

さて昨年、大山崎町は、町制施行から50年という大きな節目を迎え、11月3日に開催された町制施行50周年記念式典をはじめとして様々なイベントが開催され、町内外から多くの方々に足を運んでいただき、共に祝い事ができました。

あらためて本町の礎を築かれた先人の方々はもとより、各イベントに携わり御協力いただいた方々に対しましても深く感謝を申し上げます。

本年は心新たにして次の50年後を見据え、誇りをもって未来の町民に大山崎町を引き継ぐことができるよう、議会が持つ機能を最大

でとうございます

あいさつ—

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成も早30年を数え、一つの時代の区切りを迎えることとなりますが、昨今は少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えています。高度経済成長期に整備された社会基盤は老朽化し、その維持更新は大きな課題となり、一方で労働力人口の減少と社会保障関係経費の増大も懸念されています。

そうした中、大山崎町を将来にわたって発展させるためには、古くから交通の要衝として栄えた地理的、歴史的要因に加えて、豊かな自然といった「地の利」、そして豊富な「人財」など、この町が持つ強みを生かしてまちづくりを進めることが鍵となります。

そして、大山崎町のもう一つの強みとして、京都府内で一番面積の小さな、コンパクトな町であるということが挙げられます。

そのコンパクトさゆえに、町民の皆様が、顔と顔の見える関係を築かれているため、その連携を、より密にすることで、いざというときに助け合える理想的な関係を、さらに強固に構築できるものと考えています。

次の50年を見据えた発展を

限に発揮し、町民の安心・安全対策の向上と大山崎町の発展のため、議員一同、誠心誠意努めて参ります。

結びに、本年も一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民の皆さまにとりまして本年が幸多き一年となりますよう、ご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

大山崎町議会議長

こいずみ みつる
小泉 満

強みをいかしたまちづくりを

大山崎町は、中世には自治都市として栄えた稀有な歴史があります。「時代は巡る」と言われるように、再び新しい形での自治都市の形成も決して夢物語ではない可能性をこの町は有していると考えており、これからは皆様とともに歩みを進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。皆様のいっそうのご多幸、ご活躍を、お祈り申し上げます。

大山崎町長

やまもと けいいち
山本 圭一



始まりは一枚の写真から

昨年の6月ごろ、大山崎町商工会女性部の会員さんが他市にあるハートのモニュメントの写真を持ってきました。「これを大山崎町に設置してみては」との提案に、部員皆が賛成。大山崎町は今年町制施行50周年の記念の年であるし、町がハートのかたちをしているということは何となく知っていましたから、いいアイデアだと感じました。

地域の人々と実現に向けひた走る

それから、そのモニュメントの素材や作り方を調べると、とてもお金がかかることが分かりました。どうしようか行き詰まっていたときに、町内で天王山整備などの活動をしている団体



大山崎町商工会女性部長 本部 千賀さん

ハートを大山崎町の“顔”に

「大山崎竹林ボランティア」にモニュメントの制作をお願いしてみようという話になりました。ここに辿り着くまで暗中模索の状態で、気持ちばかりが焦っていましたが、地元のボランティア団体に協力いただけたということ、ほっと胸をなでおろしました。

設置場所も悩みましたね。最終的に妙喜庵の前に設置することを許可いただく



▲龍谷大学の学生と、大山崎竹林ボランティアスタッフと。

き、JR山崎駅を降りてすぐ目につく特等席に鎮座しています。大山崎町のモニュメントには、竹林ボランティアの皆さんの技術力が詰まっています。ハートの曲線を竹で表現するのはかなり難しく、緻密な設計書を元に作られています。また、竹は1年ほどで弱ってきてしましますが、竹林ボランティアの皆さんは「来年に向け、ボランティアスタッフ皆がモニュメントをつくれるように技を伝授しています。」と、次のことまで考えてくださっているんです。

大山崎町を愛する人々の手でこのモニュメントを完成させることができ、本当にうれしく思います。大山崎町にはいいところがたくさんありますから、町の新しい顔として、幅広い年代の人々を呼び込んで広めていく輪に

国宝前という歴史を感じさせるところと、竹の雰囲気絶妙にマッチしていて、ピッタリ場所だと思えます。

町内でフィールドワークをされている龍谷大学の学生も一緒に、モニュメントに使用する竹を切り出しました。また、キャッチコピー「叶わせてみせよう その想い ハートのまち おおやまざき」の素案を考えてもらいました。羽柴（豊臣）秀吉の句「鳴かぬなら 鳴かせてみせよう ほととぎす」にかかっているんですよ。

モニュメントに込められた技術と想い

様々な課題を乗り越え、ついに完成。11月15日にお披露目会を行い、皆さんで祝いました。



▲お披露目会のようす。感動もひとしおです。

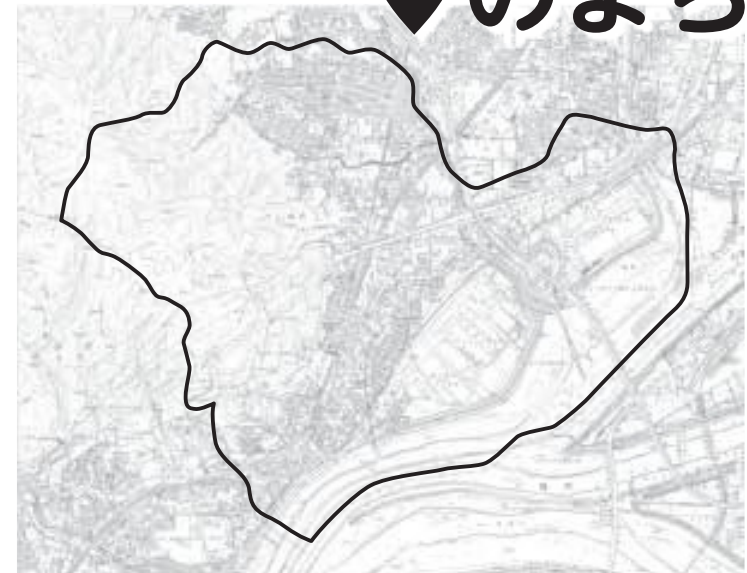
なることを願っています。

そのために、このモニュメントをつくる終わりにはず、新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思えます。

つながる人と人のハート

モニュメント設置の活動を通して、色々な人と出会うことができました。女性部の皆さんも、竹林ボランティアの皆さんも、限られた時間の中で、「町を良くしたい！」との思いから、協力してくださっています。まさに「叶わせてみせよう その想い」で、ますます町の良さが広まり、地域が活性化することを願っています。皆さんもこのモニュメントの前で、ぜひ写真を撮ってください。願い事が叶うかもしれませんよ。

ハートのまち おおやまざき



大山崎町のかたちは、上から見るとハートのかたちをしていることをご存じですか？

誰もが知っている「ハート」、きつと嫌いな人はいません。そのアイコンに着目し、地域の盛り上げりに一役買っている方々がいます。

町のかたちも特徴のひとつですが、町がコンパクトであるがゆえに、住民同士の距離が近く、心が通いやすいことこそが、「ハートのまち」である所以です。

町民も町外から訪れる人も、ハートの温度が上がるような、温かな活動をご紹介します。

問＝政策総務課企画観光係 ☎956-2101（内312）

ハート型パイサンド「ぶちねす」



町内のパン屋さんがつくるハート型のパイサンド「ぶちねす」。龍谷大学の学生との共同開発で誕生しました。パイの中には抹茶クリームやレモン、いちごなどが挟まっていて、みんなが好きな味であること間違いなし。町内で開催される催しなどでお目見えです。

販売店など詳しくは大山崎町商工会までお尋ねください。

ハート型モニュメント



JR山崎駅前、妙喜庵（待庵）の前に設置された竹製のハート型モニュメント。絶好の写真スポットです。大山崎町商工会女性部が、大山崎竹林ボランティアと協力して制作しました。町の新しい名所となること請け合いです。

ハートの後ろにはベンチが設置されていて、座って写真を撮ることができます。友人と、ご家族と、記念の一枚、いかがですか？



龍谷大学深尾ゼミナールの皆さん

若い感性を生かして ハートの特産品でまちおこし！

「和」と「洋」、 そして「ハート」の「コラボ」

私たちは、龍谷大学の三回生で、地域づくりについて学んでいます。ゼミで大山崎町をフィールドに研究を行うことになりました。町を訪れた人にもっとお金を使ってもらい、地域の経済を活性化させるため、お土産や食べ歩きのできる特産品開発に取り組むことにしました。

大山崎町は歴史ある天王山や聴竹居などの「和」の要素と、アサヒビール大山崎山荘美術館などの「洋」の要素が共存していて、二つの要素をかけあわせた商品はどうかと考えていました。

そんな折、町長に「町はハートのかたちをしているんだよ」と教えてもら

い、それも面白いなと思いました。ハートは誰もが知っているためイメージしやすく、汎用性もあります。話題にもなるだろうし、何よりもかわいー！というところで、先の考えとハートをテーマに特産品開発を始めました。

初めの挫折

最初は「顔の大きさほどのハート型せんべい」や「切ったら断面がハートの大福」などを提案しました。しかし、町に実現できる事業所がなかったり、あまりにも採算が取れなかったり、そもそも興味を持たれなかったりと、理想と現実のギャップに打ちのめされました。

それでも、できることをやろうと町

や町商工会と話し合い、協力して下さる事業所を紹介していただきました。

特産品開発の中で心通い合う瞬間

まずは昨年6月11日開催の「大山崎天下取り決戦祭り」に出店することを目標に、事業所へ何度も打ち合わせのため足を運びました。

私たちはハート型のパイサンド「ぶちねす」を提案しました。最初は顔を覚えてもらえず、「誰だっただけ？」と言われることもありましたが、あるとき「試作品ができたよ」と連絡があり、お店へ伺うと、色とりどりの試作品30種以上が並んでいたことがありました。顔を合わせて話し合いを重ねたことで、思いが通じたのだと感激しました。



▲色とりどりの試作品がずらり。

イベントで触れた郷土愛

大山崎天下取り決戦祭りでは、およそ150個を売り上げることができました。その後も、もうひとつの事業所が協力してくださったおかげもあり、乙訓ドリームフェスタや、京都の百貨店のイベント「京の味めぐり技くらべ展」、天王山ゆひ

まつりなどに
出店する
ことができ
ました。

お祭りでは、町を愛する人にたくさん出会いました。その郷土愛が私たちにも伝わり、私たちさらに町のことが好きになりました。そういう人々との縁からJR山崎駅前にあるハートのモニュメント制作に関わるなど、新しいつながりが生まれています。さらに「ハートのまち」を広げるため、町をイメージしたロゴシールもデザインしました。こちらも好評で、色々なところで使用いただいています。



▲ハートの右上は天王山を表している。

「ハート」でまちを元気に！

すぐに効果が目に見えるわけではありませんが、事業所の方々が自分から「やろう！」という意欲をもって、次の商品を提案してくださったり、宣伝方法を考えてくださったりしたことは、大きな成果だと考えています。

今回の取り組みで撒いた種が実を結び、町がハートのまちとして知られ、地域がさらに元気になれば嬉しいです。



▶恋するおもち



▲ぶちねす

「大山崎町立中央公民館等 施設整備検討会議」の公募 委員を募集します

中央公民館とその周辺の公共施設は、老朽化が進んでおり、今後の各施設の再整備について、早急に対応するべき時期を迎えています。

そこで、これらの今後のあり方について検討する場として、学識経験や関係団体、公募委員などで構成する「大山崎町立中央公民館等施設整備検討会議」を設置します。今回は、その公募委員を募集します。

【公募委員】

委員任期Ⅱ委嘱の日から整備方策の検討が終了するまで（会議は2月と3月の開催を予定）

募集人数Ⅱ4人

応募資格Ⅱ▼平成30年1月1日現在、満20歳以上の方▼町内に1年以上住所を有する方▼町の他の審議会等の委員を3つ以上兼任していない方▼町議会議員または町職員でない方

応募方法Ⅱ▼「大山崎町立中央公民館等施設整備検討会議委員応募」▼住所▼氏名▼年齢▼居住年数▼連絡先（電話番号・Eメールアドレス）を記載のうえ、ハガキ、ファックスまたはメールで左記応募先まで募集締切Ⅱ1月17日（必着）

※応募者多数の場合は抽選

問・応募先Ⅱ〒618-8501（住所不要） 政策総務課管財係

☎956-2101（内371）

FAX 957-1101

✉kanzai@town.oyamazaki.jp

平成29年度 第5回京都府公民連携 プラットフォーム

本町では、中央公民館などの公共施設整備の検討を進めているところです。この度、京都府が、公共施設の公民連携など様々な手法について、行政・民間事業者・大学研究者の方たちと一緒に意見交換する場を設けます。

本町の公共施設のあり方など、課題解決の糸口と一緒に探りませんか。ときⅡ1月19日（金）午後1時30分～（午後1時受付開始）ところⅡ大山崎ふるさとセンター3階ホール

内容Ⅱ公共施設マネジメントを推進する際の公民連携など様々な手法についての検討をテーマに、大学教授等による講演や意見交換会

申込方法Ⅱ町HP掲載の参加申込書をメールで、または▼住所▼氏名▼連絡先▼意見交換会の参加可否▼懇親会の参加可否（参加の場合は領収書の要否）を記載のうえFAXで左記申込先まで（1月12日（金）締切）

参加費Ⅱ無料（懇親会に参加の方は別途1,000円のご用意をお願いします）主催Ⅱ京都府・株式会社京都銀行・内閣府

問・申込先Ⅱ「京都府公民連携プラットフォーム」事務局

☎361-2271

FAX 371-9307

✉a.nemura@kyotobank.co.jp

平成29年度実施 大山崎町職員採用試験案内

【募集職種／採用予定人員／受験資格】
募集職種＝①事務職②技術職（土木）

採用予定人数＝各若干名

受験資格＝次の学歴に該当する最終学校を卒業または平成30年3月末日までに卒業見込で、下記の期間に生まれた方

- ・大 卒：昭和63年4月2日～平成8年4月1日生
- ・短大卒：昭和63年4月2日～平成10年4月1日生
- ・高 卒：昭和63年4月2日～平成12年4月1日生

②の場合、上記に加え次の1・2のいずれかに該当する方

1. 最終学校（学校教育法による高等学校、高等専門学校、短期大学及び大学等）で土木専門課程を修得した方または平成30年3月末日までに修得見込の方
2. 2級土木施工管理技士以上の資格を有する方

注1. いずれの職種も日本国籍を有しない方または地方公務員法第16条の規定による欠格事項に該当する方は受験できません。
2. 事務職の「高卒」は、最終学歴が中学卒であっても大学入学資格検定に合格し、生年月日が昭和63年4月2日～平成12年4月1日生である方は受験可能です。

※事務職について、筆記試験は活字印刷文による出題（拡大した問題用紙）や、面接は口頭面接（筆談や手話通訳）を準備していますので、必要な方はお申し出ください。

【採用予定日】 平成30年4月1日

【採用試験】

（1）第1次試験 2月4日（日） 大山崎町役場にて
試験内容＝（事務職）教養試験、適性検査
（技術職）教養試験、専門試験

合格発表＝2月中旬頃郵送で可否を通知

（2）第2次試験 日時は合格者へ郵送で通知

あの頃を振り返る 広報誌600号のあゆみ

第100号



昭和53年7月1日発行

ゴミの特別回収実施に伴い、各家庭での大掃除を呼びかけている。衛生環境の整備が十分でないことから、昔は夏にも大掃除が行われていた。
また、「広報紙を読んでいるか」とのアンケートに、「読んでいる」と答えた人の割合が98%と伝えている。

第1号



昭和38年7月15日発行

記念すべき第1号は大山崎村の時代に発行されたもの。新年度予算の概要が掲載されている。この頃は年1回ほどのペースで発行していた。
ちなみに、町制施行時には広報紙は発行されず、翌年に第4号がやっと発行された。

第300号



平成5年5月1日発行

これまでの広報誌を振り返る特集。第1号に出生の名前が載っていた町民へのインタビューで、本人は「実はあまり広報誌を読んでいない」と話している。この当時は広報ビデオも撮影しており、役場のロビーで放映していた。

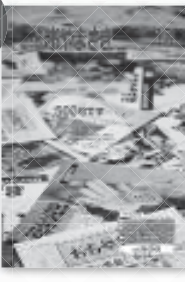
第200号



昭和60年10月1日発行

200号に達した記念の特集として、大山崎町の歴史を平安時代から丁寧に拾い上げている。「サバイバル入門」の記事で、ナイフやオノなどの使い方の紹介があった。
この頃は人口のピーク時で、16,762人と、17,000人に迫る勢いだった。この2ヶ月後から人口が減少傾向に転じる。

第500号



平成21年10月1日発行

広報誌の歴史と、愛読者の声を紹介。これまで広報誌作成を担当してきた町職員の座談会も。
今もかたちを変え存在する11月初旬開催の産業まつりの案内や、新設する子育て支援センターの名前募集（このあと『ゆめほっぺ』に決定）などがあった。

第400号



平成13年9月1日発行

表紙は敬老会のようす。参加を呼びかけている。当時は家庭にパソコンが普及し始めていることもあり、町主催の「IT講習会」の開催案内が掲載されている。インターネットやメールの利用方法といった基礎からの講習会は人気があったようだ。



読者の声

いつも広報誌に関わったり、愛読いただいている町民の方の声を紹介します。

シルバー人材センター

藤原さん



町の広報誌はシルバー人材センターの会員17人が皆さんのお宅に全戸配布しており、私はその統括やお手伝いをしています。会員みんなが「町のことをもっと知ってもらいたい」という思いで配布しています。

私も広報誌は隔々まで読みますが、特に議会関係や福祉関係を気にしています。また、町のサークルの動きなどもチェックしています。行政が何をしているか、町民は何に興味を持っているかなどを知るの、広報誌が一番ですね。

朗読ボランティア 西畠さん、唐橋さん（左から）



視覚障がい者などに、広報誌を読み上げた「声の広報」をテープに吹き込んでお渡ししています。今は3人で活動しています。視覚障がい者だけでなく、高齢で目が見えづらくなってきた方などでもご利用いただけたら嬉しいです。

広報誌は朗読することもある。熟読します。ふとしたときに「あ、広報誌に載っていたな」と思ったりします。また、人の顔が載っていると、「知っている人かな？」と、注目して読みますね。

ゆめほっぺ利用者

森山さん



大山崎町に引っ越してきてから3年になります。子どもが生まれる前は広報誌を手取ることはありませんでしたが、今は結構読みますね。

主にイベントや子育て情報をチェックします。あと、「ひとのうごき」で、新しく生まれた子どもの名前を見るのも楽しいですよ。

子育て世帯が増えてきているので、ママに関連する特集があれば読みたいですね。

あの“旬”を届け続けて600号

広報 おおやまざき 600号

問Ⅱ政策総務課企画観光係
☎956-2101
(内312)

取材先、読者あつての広報誌です。皆さんが支えてくださっているおかげで、毎号発行することができています。お知らせはもちろんのこと、読んでいて楽しい広報誌を目指していきますので、どうぞよろしくお願いします。

また、広報誌は当時のようすを知る貴重な資料でもあります。節目の広報誌には何が掲載されていたのかを振り返ります。「この表紙や内容、見たことがある」「こんなことあったなあ」と思われる方もいらつしやるかもしれませんね。

今回は、広報誌が皆さんのお手元に届くまでの流れや、読者の声をご紹介します。



広報誌ができるまで

月1回、年12回発行

①企画

各担当課や町民のみなさんから寄せられた情報をもとに、何を取材するか、どのような大きさを掲載するかなどを検討します。

②取材

町民の方に連絡して取材にご協力いただいたり、イベントで写真を撮影したりします。

③原稿作成

ワードや手書きで作成した原稿を印刷業者へ渡し、専門ソフトを使って誌面を作成してもらいます。

④校正

内容に間違いは無い、誤字脱字は無いかなどを丁寧にチェックしていきます。

⑤完成・印刷

印刷業者と何度も修正のやりとりを重ね、完成すると、印刷に取り掛かってもらいます。

⑥納品・配布

現在の発行部数は7,000部。シルバー人材センターの会員さんが手分けして皆さんのお宅へ配布してくださっています。

Survive

シリーズ防災 政策総務課危機管理係 ☎956-2101(内331)

寄贈いただきました！

Vol.55

町内企業の皆様と
訓練を実施しました

町内企業の皆様には、日頃からそれぞれの立場で防災・減災に取り組んでいただいています。町総合防災訓練の際には電話連絡訓練に10社ご参加いただき、災害時の対応を確認しました。

また、都タクシー(株)様には協定に基づき要配慮者の送迎訓練を実施していただき、改めて、災害時における企業の皆様との連携の重要性を再認識しました。

今後も住民の皆様、町内企業の皆様と共に「オール大山崎」で、災害に強い町づくりに向けた様々な取り組みを行ってまいりますので、引き続きご協力をお願いします。



ダイハツ工業株式会社様、マクセルホールディングス株式会社様から、主に防災用途に使用することを目的として、以下の物品を町制施行50周年記念として特別寄贈いただきました。早速、昨年11月26日に実施しました大山崎町総合防災訓練で展示、使用しました。

どちらも災害対応時に非常に大きな力を発揮する、両企業と同じく頼りになる存在です。引き続き、有効に活用いたします。(関連記事 13ページ)



ダイハツ工業株式会社

名称	トール (THOR)
主な仕様	四輪駆動車 排気量：996cc 燃費：22.0km/ℓ 室内空間：長2,180mm、 幅1,480mm、高1,355mm
想定用途	防災パトロール、防災資機材輸送、 避難者搬送 ※防災に適した四輪駆動車。室内空間も広く、人員・物資輸送にも活躍。



マクセルホールディングス株式会社

名称	エナジーステーション タイプT
主な仕様	可搬型蓄電池 蓄電容量：5.6kWh UPS機能：停電を検知し、瞬時に電力供給を開始
想定用途	災害対策本部、避難所などでの電気機器接続 ※排気ガスを排出しないため、停電時でも屋内で安全に使用できます。

Relax

中央公民館図書室だより

図書室 平日 10:00～17:00
開室時間 土日祝 10:00～16:30

休室日 毎週月曜日
1月1日(祝)～4日(祝)、25日(祝)

図書室 (公民館内) ☎957-1421

絵本の読み聞かせ 1月10日(祝)
10:30～11:00

今年も、大山崎中学校2年生の生徒が中央公民館図書室へ職場体験活動に来てくれました。

本の貸し出し業務やラベル貼り、紙芝居の読み聞かせなどを体験してもらいました。

今月の図書室だよりでは、職場体験活動をした二人がおすすめの本をご紹介します。



挑戦！紙芝居の実演に

私たちのおすすめ本

『甘くてかわいいお菓子の仕事』

KUNIKA／著 河出書房新社

この本には、著者であるKUNIKAさんの子ども時代から、大人になりスイーツアーティストという仕事に就くまでのことが書かれています。KUNIKAさんのいう「夢を叶えるための方法」には、中学生からでもできそうなものがたくさんありました。将来のことを考える上で、役に立ちそうな本です。



伊豆野 侑子さん

『夢をかなえるソウ』

水野 敬也／著 飛鳥新社

「自分を変えたい」と悩んでいる主人公に、象の神様・ガネーシャが「になりたい自分」になるための課題を与えていきます。

ガネーシャの教えは、読んでいて「なるほど」と思うものばかりで、自分自身もガネーシャからの課題をやりたいと思いました。

笑いもあり、楽しく読むことができる本なので、ぜひ読んでみてください。



はるか 吉山 陽翔 君

第29回危険業務従事者叙勲 受章おめでとうございます

瑞宝双光章 古岩 大三郎 さん

こんにちは！
広報まちづくりサポーターです問＝政策総務課企画観光係
☎956-2101 (内312)町民目線で
まちの話題を
キャッチ！

永田 優子 さん

「広報まちづくりサポーター」が町内で話題のイベントや注目の人、自身の体験などをレポートします。

まちのええとこ、ええもん、魅力いっぱい！

『おもてなしウィーク2017』無事終了しました

毎年11月の最終金・土・日曜日は『おもてなしウィーク』。2017年は11月24日(金)～26日(日)の3日間に開催、町内41ヶ所とおとなりの島本町内1ヶ所の全42ヶ所で68軒の出展がありました。最終日に少し時雨れたものの何とかお天気もち、たくさんの方がまち歩きや買い物などを楽しまれていました。

「まちまるごと文化祭」をテーマに2008年にスタートした『おもてなしウィーク』は、昨年10周年を迎えています。当初はまちの商工会が企画・運営していましたが、2015年からは有志メンバーによる「実行委員会」が引き継ぎました。わたしもスタッフのひとりです。

このイベントの良さは、小さなまちだからこそ「あたたかさ」。人の顔がよく見えることです。出展者さんたちは、ワンコイン商品や限定メニューを準備したり、作品をつくりためたりして、「今年も待ってたよ！」とはりきって参加してくださいます。訪れるかたも、まちを包むそんな気持ちで伝わるから、繰り返し来てくださるのだと思います。

『おもてなしウィーク2017』では、前年念願の「関越え」を果たし島本町「関大明神社」での出展が叶ったことを弾み

に、10周年にふさわしい新しい試みを…と考えていたところ、町中央公民館に手を挙げていただき「職人さんによる手づくりワークショップ」を初開催。型染め友禅や錫工芸、つまみ細工の職人さんに手ほどきを受けながら、大勢の子どもたちが作品づくりに熱中していました。この様子に館長さんも「ずっと参加したいと思っていた。思い切ってやってよかった」と、目を細めていらっしやいました。

これからは「うちも一緒にやってみたい」と言ってくれる仲間を増やしつなかりを深めていくことで、まちの魅力を発信するお手伝いができたらと願っています。



「つまみ細工」挑戦中。好みの布地をピンセットを使っていねいに折ったりつまんだり。きれいな花が出来上がります

おもてなしウィークInstagram
https://www.instagram.com/ojmotenashiweek_oyamazaki_kyoto/
ちょくちょく更新しています！

グリュエツツィ

+ Grüezi! Adrianのスイス通信

どうも、GIR(国際交流員)として町で働いているアドリアン・フリースです。皆さんにもっとスイスのことを知ってもらえるよう、日本とスイスの似ているところや違いなどを紹介していきます。どうぞ、よろしくお願いします。

はい、チーズ！



この寒い季節に、とろけるチーズ、すなわちフォンデュやラクレットを食べることは最高です！スイスでも少し値段は高いですが、美味しい料理で、体を温めると同時に楽しい体験をシェアするのはいいですね。ですので、「チーズ」と言ったら、笑顔になります。最近日本でもフォンデュやラクレットは流行っている、と聞いたことがあります。

皆さんもスイスチーズをご存じですか。スイスではグリュイエールという種類が一番人気ですが、皆さんが知っているのは、きっと、エメンタールのことでしょう。エメンタールは典型的な穴のあるチーズで、全世界でも有名です。しかし、その穴はどうやってできるのでしょうか。「ネズミがかじったもの」とか、「スイスでは、チーズくり抜き業がある」などのうわさや冗談がたくさんありますが、事実は現代まで謎でした。ようやく一昨年、スイスの

研究チームが100年間続いた研究を終えて、原因を見つけました。それは干し草です！その粒子が牛乳に入って、チーズに二酸化炭素の泡があらわれます。しかし、近代的な搾乳方法で、その混ざり物はほとんどなくなって、チーズの穴も減りました。スイスはもうすぐ重要なブランドを失ってしまうのでしょうか。いえ、心配にはおよびません。現代のエメンタール製造者は、わざと干し草の粒子を小出しにいれます。伝統は、やっぱり大事なことです。



昔も、今も、友達とフォンデュと白ワインはいいコンビで、誰しも笑顔になります。